

補助金・交付金 チェックシート (No.1)

補助金名 (交付金名)	北海道難病連補助金	開始 年 度	昭和53年度
団 体 名	一般財団法人 北海道難病連	団体等 の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 課税事業者 <input type="checkbox"/> 免税事業者
助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	・函館市補助金等交付規則 ・北海道難病連補助金交付要綱		

○補助事業の内容および目的・効果

内 容	(一財)北海道難病連の活動は、市民への難病問題の啓発や患者の福祉の増進に寄与しており、本市の保健衛生行政に資するところが大きいことから毎年度30万円の交付要望に応じ同額を交付していたが平成26年度から本市の人口減を考慮して、補助金額を現額し令和7年度は24万円を交付予定。
目 的	(目 的) 難病患者とその家族が、療養生活に有益な情報を得ることによって病苦の軽減を図り、また、同病者との連携により、精神的安寧が得られることを目的とする。
・ 効果	(効 果) 難病患者の社会自立を推進するために難病患者の各団体が医療、福祉および生活全般についての相談に応じたり、医療について研修会を開催するなどのほか、広く市民に対し難病問題の啓発を行うことで、病気についての正しい知識の普及が図られ、難病患者とその家族の福祉増進に寄与することができる。

○補助事業の収支状況 ※上段:補助事業等に要する経費 [下段]:補助対象経費 (単位:千円)

収	年 度	助 成 金		事業収入	会 費	繰越金	計
		市	その他				
入	R3 (決算)	260 [260]	18,903 [16,817]	10,290 [9,377]	2,461 [1,375]	1 [1]	31,915 [27,830]
	R4 (決算)	260 [260]	22,600 [17,640]	14,262 [13,547]	2,391 [1,300]	1 [1]	39,514 [32,748]
	R5 (決算)	250 [250]	22,779 [17,259]	15,863 [14,943]	2,217 [1,157]	1 [1]	41,110 [33,610]
入	R6 (決算)	250 [250]	18,560 [17,259]	25,406 [17,772]	2,058 [2,058]	1 [1]	46,275 [37,340]
	R7 (予算)	240 [240]	17,059 [15,666]	20,997 [13,548]	2,364 [2,364]	1 [1]	40,661 [31,819]
支	年 度	人件費	事務費	事業費	上部団体 負担金等	計	
	R3 (決算)	571 [571]	1,564 [1,564]	26,421 [24,335]		31,914 [27,830]	
出	R4 (決算)	179 [179]	2,673 [2,673]	33,796 [28,835]		39,514 [32,748]	
	R5 (決算)	782 [782]	1,657 [1,657]	34,633 [29,113]		41,110 [33,610]	
	R6 (決算)	0 []	4,953 [3,374]	39,884 [32,529]		46,274 [37,340]	
	R7 (予算)	0 []	4,619 [2,914]	34,739 [27,602]		40,661 [31,819]	

補助金・交付金 チェックシート (No.2)

補助金名 (交付金名)	
----------------	--

○基本的視点の再チェック

基 本 的 視 点		適	不適	説 明
1	公益性 (明確な公益性があるか) ①広く市民生活の向上に貢献 する事業 ②市民ニーズが高い事業	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	広く市民に対し、難病についての正しい知識の普及啓発を行うことにより、難病患者とその家族の福祉の向上を図ることができる。患者家族の交流や機関誌の発行に対する要望も強く寄せられている。
2	必要性(補助しなければならぬ事業であるか)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	財政基盤の弱い患者・家族団体であり、資金造成活動に努力しているものの十分な確保ができない現状である。
3	自主性(自主自立に向け努力しているか)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	理事会や支部協議会等を通じて、運営や事業内容の検討などを行い、難病患者支援のための事業を自主的にやっている。
4	有効性(他の手法ではなく補助することが、施策目的実現に最適か)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	患者会の活動は、難病患者や家族の交流や連携によって、精神的な安寧が得られるなどの効果があることから、他の手法ではなく補助することが施策目的の実現に最適と考える。

○財政的視点のチェック

財 政 的 視 点		不適	不適の場合の理由と今後の対応について
1	積算内訳は、前年踏襲となっていないか	<input type="checkbox"/>	
2	補助金等の使途は適切である	<input type="checkbox"/>	
3	積算基準は定められている	<input checked="" type="checkbox"/>	定額の補助金であることから、積算基準は定められていない。今後、全庁的な整理の中で基準の設定について検討していく。
4	補助割合は、補助対象経費の1/2以内である	<input type="checkbox"/>	
5	前年度繰越金は生じていないか	<input type="checkbox"/>	
6	自主財源の確保に努めている (最低でも前年度の収入を確保しているか)	<input type="checkbox"/>	
7	経常経費の節減に努めているか	<input type="checkbox"/>	

補助金・交付金チェックシート(No.3)

補助金名 (交付金名)	北海道難病連補助金
----------------	-----------

○補助効果の検証

(効果測定方法、具体的な数値等)

難病患者の社会自立を推進のために各団体が、医療福祉および生活全般について相談に応じるほか、研修会等の開催により、広く市民に難病問題の啓発を行い、病気についての正しい知識の普及が図られている。

これら当該団体の活動は、難病患者とその家族の福祉向上に寄与している。

患者団体への支援状況、講演会開催回数、相談件数等により、効果を測定する。

(達成状況)

1. 育成援助について～33疾病別団体および21地域支部の育成援助を行っている。
2. 医療講演会や相談～年間1, 121件
3. 宣伝啓発～難病患者と家族の全道集会の開催や機関誌「なんれん」の発行



(評価)	(理由)
十分効果をあげている <input type="checkbox"/>	北海道難病連の開催する講演会や各支部の患者会主催の研修会、機関誌「なんれん」による普及啓発活動、全道大会や患者会における患者・家族の交流、各支部における医療・福祉・生活全般に関する相談等により、難病患者やその家族が身体的・精神的な苦痛を軽減することができており、難病患者支援に関し一定の効果をあげていると評価する。
一定の効果をあげている <input checked="" type="checkbox"/>	
効果が疑問である <input type="checkbox"/>	
その他 <input type="checkbox"/>	

○今後の方向性

<input type="checkbox"/> 現行のまま補助を継続	<p>(見直しの内容)</p> <p>函館市は昭和53年から、継続して要望額と同額の30万円を交付していたが、平成26年度に人口規模の縮小のため28万円に見直した。人口により補助金額を積算しているため、一定期間ごとに見直すこととして、平成29年度に交付額を27万円とし、平成31年度より交付額を26万円、令和5年度から25万円としており、令和7年度は24万円とする。</p> <p>(見直しの時期)</p> <p>令和9年度</p>
<input checked="" type="checkbox"/> 見直したうえで補助を継続	
<input type="checkbox"/> 廃止	
<input type="checkbox"/> その他	

(廃止の理由)	(その他の内容)
(廃止の時期)	

○終期の設定

終期設定	<input type="checkbox"/> 終期到来により廃止	次回チェック年度(予定)
令和 9年度	<input checked="" type="checkbox"/> 終期到来時に再検討	
		令和 9年度